

静岡学園なごみ高等学校 通信教育実施計画書

国語表現	単位数	4 単位	年次	3 年	教科書	東京書籍
-------------	------------	------	-----------	-----	------------	------

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

◆年間指導計画

領域・教材名 ページ数・配当時数	学習指導要領との対応	学習目標	学習活動例 (*は指導上の留意点など)	評価規準例
■ 1 学期				
◇ 表現とは何か (4月)				
話す・聞く／書く 表現とは何か	[知技](1)ウ, エ [思判表] 話すこと・聞くこと(1)ウ, エ, カ ／書くこと(1)ウ, カ	・冒頭の文章や「表現の窓」の文章を読んで、「表現とは何か」について考える。 ・さまざまなゲームに取り組み、表現を学ぶ際に重要なことを体験的に知る。	<第1時> 1 単元全体の目標の確認をする。 2 冒頭の文章(教科書P. 4～5)を読み、表現について考える。 3 「傾聴・共感ゲーム」のやり方を確認する。 4 「傾聴・共感ゲーム」に取り組む。 5 「ジェスチャーゲーム」のやり方を確認する。 6 「ジェスチャーゲーム」に取り組む。 7 「円周率でラップ」のやり方を確認する。 8 「円周率でラップ」に取り組む。	[知技] ・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。 [思判表] ・「話すこと・聞くこと」において、自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫している。

			<p>9 「折り紙説明ゲーム」のやり方を確認する。</p> <p>10 「折り紙説明ゲーム」に取り組む。</p> <p><第2時></p> <p>表現の窓</p> <p>1 平田オリザの文章を読んで、内容を理解し、手引きに取り組む。</p> <p>2 角田光代の文章を読んで、内容を理解し、手引きに取り組む。</p> <p>3 古荘真敬の文章を読んで、内容を理解し、手引きに取り組む。</p> <p>4 単元全体のリフレクションをする。</p> <p>*この教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 ・「書くこと」において、読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。 ・「書くこと」において、読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 <p>[主] 導入のミニゲームを通じて、傾聴や身体表現などを進んで自ら体験し、学習課題に沿って表現が伝わったときの喜びを理解しようとしている。</p>
<p>1 分かりやすく説明しよう<情報の整理・伝達>（4～5月）</p>				
<p>話す・聞く／書く 分かりやすく説明しよう</p> <p>スキルアップ ……接続の言葉</p>	<p>[知技](1)イ、ウ [思判表] 話すこと・聞くこと(1)ア、ウ、エ／書くこと(1)カ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を整理し、「相手」「内容」「目的」「状況」に応じて、分かりやすく伝える方法を身につける。 ・学習を通じて得ら 	<p><第1時></p> <p>フロントページ</p> <p>1 単元冒頭の「分かりやすい説明」のポイント（教科書P. 16）を読み、「分かりやすい説明」に必要なものを理解する。</p> <p>2 見返しの「東京防災」、あるいは、持ち寄ったチラシ、実際のニュースでアナウンサーが読んだ内容を書き写したものなどを</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。

<p>スキルアップ ……SNSでのトラブル回避のために</p>	<p>[知技] (1)ア, エ [思判表] 話すこと・聞くこと(1)イ／書くこと(1)イ, エ</p> <p>[知技] (1)イ, ウ [思判表] 書くこと(1)オ, カ</p>	<p>れた「分かりやすく説明する方法」を、日常生活においても状況に応じて使えるようにする。</p>	<p>読み、「分かりやすい」部分や「分かりにくい」部分を確認する。 3 2で「分かりやすい」「分かりにくい」と感じた点について、理由を分析する。</p> <p><第2時> ポイント①相手・内容・目的・状況を明確にする 1 グループに分かれ、教科書P. 18の例①と例②の説明を読み、説明が分かりづらいと感じる原因を話し合う。 2 写真(A)について、「エクササイズ」の①、②の場合に適した説明にするには、どのような手段や道具、態度など（ツールやモード）がよいか考え、教科書P. 19に示された流れに沿って、説明に必要な事柄を箇条書きにする。 3 2で挙げた内容に合わせて、さまざまな説明を考える。 4 グループ内（隣どうし）で説明し合う。</p> <p><第3時> 1 教科書P. 20を見ながら、カジュアル、フォーマルというモードに応じた言い回しがあることを確認する。 2 教科書P. 21「エクササイズ」の(A)、(B)の文章について、言葉選び、言葉遣いを比べて、気がついたことを話し合う。 3 状況を設定し、そこで伝える事柄を、カジュアルとフォーマルの二つのモードで書いたり、話したりする。 4 類語辞典を用い、「考える」「分かる」「うれしい」など、教科書P. 21の①～④に挙げられた言葉について、似た意味の言葉を調べ、カジュアルかフォーマルかなどの観点で分類・整理してみる。 5 TPOに適した言葉や言葉遣いがあることを確認する。</p> <p><第4～5時> ポイント②情報の取捨選択・重みづけを行う 1 グループで、P. 22の事故のイラストや説明をもとに、110番の際に重要な情報を確認する。 2 グループで、教科書P. 22～23「エクササイズ」の(A)について、描かれているものを観察するなどし、情報を読み取って書</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。 「話すこと・聞くこと」において、自分の主張の合理性が伝わるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど、話の展開や構成を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において、自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において、相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。 「書くこと」において、読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、反論などを想定して、論理の展開を考えるなど、文章の展開や構成を工夫している。 「書くこと」において、自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するな
-------------------------------------	---	---	---	--

			<p>き出す。</p> <p>3 教科書P. 24～25 の説明を読み、書き出した情報を分類し、教科書P. 22 上段の①、②の条件で説明する際に取り上げる情報を選ぶ。</p> <p>4 教科書P. 22 上段の①、②の条件に合わせた説明を考える。発表し合い、①と②の違いを比較する。</p> <p>5 「エクササイズ」の㊸について、小学四年生に説明するという設定で、情報を取捨選択し、重みづけする。</p> <p>6 5の情報をもとに、教科書P. 19 のモードやツールを考えながら、説明をする。</p> <p>7 6で考えた説明について、印象の違いや感想を聞く。</p> <p><第6～7時></p> <p>ポイント③情報を伝える順序を考える</p> <p>1 教科書P. 26 の「基本となる順序」について説明をし、確認する。</p> <p>2 教科書P. 27 の「私が昨年登った山」の具体例を読み、順序によって説明の伝わり方が違うことを確認する。</p> <p>3 教科書P. 27 の写真を見て、写っているものを書き出し、情報を分類する。</p> <p>4 分類した情報を説明する順序に気をつけて実際に話す。「基本となる順序」を参考に説明する順序を決める。近景から遠景へ、遠景から近景へなど逆のパターンの説明をする。</p> <p>5 他のグループの発表について、「分かりやすい点」「分かりにくい点」を確認し、情報を伝える順序を中心に評価する。</p> <p><第8時></p> <p>ポイント④「見やすさ」に配慮して情報を整える</p> <p>1 教科書P. 30 を読み、書き言葉による説明について、「見やすさ」「読みやすさ」にはどのような工夫があるか確認する。</p> <p>2 教科書P. 30 の「エクササイズ」を読み、第1時で持ち寄ったチラシなどや、見返しの「東京防災」を見て、「見やすさ」のためにどのような工夫がされているか考える。</p>	<p>ど、表現の仕方を工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫している。 ・「書くこと」において、読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 <p>[主] 分かりやすい説明に必要なことを粘り強く理解しようとし、学習課題に沿って、言葉選びや言葉遣い、情報の整理などの観点から、説明の仕方を改善しようとしている。</p>
--	--	--	---	--

			<p>3 「見やすくする工夫」で内容が理解しやすくなることを確認する。</p> <p><第9時></p> <p>1 教科書P. 31を見て、書き言葉による説明での「見やすくする工夫」を具体的に理解する。</p> <p>2 ワークシートを用い、「見やすくする工夫」を使って紙面を再構成する。</p> <p>3 もとの文章と「見やすくする工夫」をした紙面を比べて、グループ内で見せ合い、互いに評価し合う。</p> <p>4 単元全体のリフレクションをする。</p>	
2 身体で表現しよう（5月）				
<p>話す・聞く 身体で表現しよう</p>	<p>[知技] (1)ア, ウ [思判表] 話すこと・聞くこと(1)エ, カ</p>	<p>・自分の身体が表現しているものについて考えを深める。</p> <p>・演劇的な活動に取り組む、自分の身体を効果的に使って表現するスキルを身につける。</p>	<p><第1時> フロントページ</p> <p>1 単元全体の目標の確認をする。</p> <p>2 自分の身体表現について振り返る。</p> <p>3 授業を振り返る</p> <p><第2～3時> ステップ①他人を演じる</p> <p>1 「他人を演じる」の手順を確認する。</p> <p>2 「他人を演じる」のグループワークを行う。</p> <p>3 「他人を演じる」の振り返りを行う。</p> <p><第4時></p> <p>1 教科書P. 38～39の「エクササイズ」の手順を確認する。</p> <p>2 「発声と口調」のエクササイズに取り組む。</p> <p>3 「身振り・表情」のエクササイズに取り組む。</p> <p>4 二つのエクササイズを振り返る。</p> <p><第5～6時> ステップ②インプロに取り組む</p> <p>1 教科書P. 40を読んで「インプロ」について理解する。</p> <p>2 「二人でのインプロ」の手順を確認する。</p> <p>3 「二人でのインプロ」に取り組む。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。 自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」において、相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において、視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したたりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 <p>[主] 即興で演じる活動を通じて、身体が表現することを積極的に意識し、スピーチや発表</p>

			<p><第7～8時></p> <ol style="list-style-type: none"> 「四～六人でのインプロ」の手順を確認する。 「四～六人でのインプロ」に取り組む。 <p><第9時></p> <p>表現の窓「インプロの魅力」</p> <ol style="list-style-type: none"> 教科書P. 44～45を読んで、本文の内容を確認する。 本文の構成・趣旨を確認する。 「インプロの魅力」についてグループで話し合う。 単元全体の振り返りをする。 	<p>などの際に効果的に伝えられるよう、今までの学習を生かして表現の仕方を改善しようとしている。</p>
3 「問い」を考えよう<インタビュー> (6月)				
<p>話す・聞く／書く 「問い」を考えよう</p> <p>スキルアップ ……電話のかけ方・メールの書き方</p> <p>スキルアップ ……手紙の書き方</p> <p>スキルアップ ……「問い」の活用</p>	<p>[知技](1)ア, イ [思判表] 話すこと・聞くこと(1)ア, エ, カ／書くこと(1)ウ, オ ④話すこと・聞くこと(2)ウ ④書くこと(2)カ</p> <p>[知技](1)イ, エ [思判表] 話すこと・聞くこと(1)ウ, エ, カ／書くこと(1)ア, ウ, オ ④話すこと・聞くこと(2)イ ④書くこと(2)エ</p>	<p>・問う力・質問力が自他の表現および思考の質に大きく関わることを認識し、その種類や機能を学び、活用法を習得する。</p> <p>・インタビューを実践することで、問い・質問のもつ力や意義、その重要性を体験的に学習するとともに、インタビューを文章で再現することで、構成力や表現力を養う。</p>	<p><第1時></p> <p>フロントページ</p> <ol style="list-style-type: none"> 「問い・質問」のイメージや経験を交流する。 単元冒頭のリード文(教科書P. 46)を読み、言語生活における「問い」の位置づけを確認し、インタビューのポイントを共有する。 「ウォーミングアップ」(教科書P. 47)のペア・インタビューを行う。 3のアクティビティの体験交流を踏まえて、次回からの学習(インタビュー活動)の予告を行い、学習のねらいを共有する。 <p><第2時></p> <p>■インタビューを企画・実施しよう</p> <p>ステップ①目的とテーマを明確にして企画を立てる</p> <ol style="list-style-type: none"> インタビューについてのイメージを共有する。 インタビューの種類・タイプを押さえる。 インタビューの目的、テーマ、相手候補を検討する。 企画を練り、インタビュー相手を決める。 今後の流れを確認、共有する。 <p><第3時></p> <p>ステップ②依頼・準備をする</p> <ol style="list-style-type: none"> インタビュー実施に至るプロセスの重要性を共有する。 	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。 自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。 「話すこと・聞くこと」において、自分の主張の合理性が伝わるよう、適切な根拠を効果的

	<p>[知技] (1)イ, エ [思判表] 書くこと(1)ア, ウ, オ ⑧ 書くこと(2)エ</p> <p>[知技] (1)イ, ウ [思判表] 話すこと・聞くこと(1)イ, エ / 書くこと(1)エ, カ</p>		<p>2 必要な事項を書き出し、情報を整理しつつ企画書を作成する。 3 依頼の方法を確認、学習し、依頼を行う。 4 今後の流れを確認、共有する。</p> <p><第4時> ステップ③質問を考え、本番のシミュレーションをする</p> <p>1 シミュレーションの重要性を共有する。 2 「エクササイズ」(教科書P. 55)を行い、質問の種類や役割を押さえる。 3 質問メモを作成しつつ、シミュレーションする。 *ステップ④の「インタビューの例(教科書P. 56~57)を参考に にする。 4 今後の流れを確認、共有する。</p> <p><第5時> 表現の窓「よい質問とは」</p> <p>1 「よい質問とは何か」について考えを交流する。 2 テキスト「よい質問とは」を読み、相手の話を理解するため、 納得するためにはどのような質問が「よい質問」だと述べられて いるかを読み取り、文章にまとめる。 3 学習したことを、インタビューや今後出会う文章の読解など に活用することを促す。</p> <p><*放課後などに実施> ステップ④インタビューに臨む</p> <p>1 注意事項を確認、共有する。 2 インタビューを実施する。 3 事後の流れを確認、共有する。</p> <p><第6~9時> ■インタビューを記事にまとめよう</p> <p>1 これまでにどのようなインタビュー記事に出会ってきたかを 交流する。 2 教科書P. 58~59に挙げられた三つのタイプのインタビュー 記事について、それぞれの特徴を押さえる。 *P. 59下段の「エクササイズ」を行う。</p>	<p>に用いるとともに、相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど、話の展開や構成を工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。 ・「書くこと」において、読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。 ・「書くこと」において、自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫している。 ・「書くこと」において、自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫している。 ・「書くこと」において、読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整え
--	--	--	--	--

			<p>3 記事のタイプを決め、執筆する。</p> <p>4 写真を組み合わせたり、文字組やタイトル周りのデザインを考えたりして紙面を工夫しながら作成（レイアウト）する。</p> <p>5 完成した記事（紙面）を交流し、相互評価を行う。</p> <p><第10時></p> <p>1 実践を通して学んだインタビューのポイントを箇条書きにして、ノートやポスターにまとめる。</p> <p>2 単元全体のリフレクションをする。</p>	<p>たり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。</p> <p>[主] コミュニケーションや思考において「問う力」が重要であることを粘り強く理解し、学習の見通しをもってインタビューの企画、準備、実施、インタビュー記事の執筆活動に臨もうとしている。</p>
4 「自分」を表現しよう<面接・自己PR>（7月）				
<p>話す・聞く／書く</p> <p>「自分」を表現しよう</p>	<p>[知技] (1)イ, ウ, エ</p> <p>[思判表] 話すこと・聞くこと(1)ア, イ, ウ, エ, オ／書くこと(1)ア, イ, ウ, エ, カ</p> <p>④話すこと・聞くこと(2)ア</p>	<p>・自己分析を行い、第三者の意見も踏まえて、客観的に「自分」を把握する。</p> <p>・志望理由書・履歴書の作成、模擬面接などで、相手に伝わるように「自分」を表現する。</p>	<p><第1時></p> <p>フロントページ</p> <p>1 単元冒頭のリード文（教科書P. 66）を読み、面接・自己PRのポイントを確認する。</p> <p>2 ジョハリの窓について説明を聞く。</p> <p>3 ワークシートを使用して、グループでジョハリの窓に取り組む。</p> <p>4 自分が認識している自分と、他人から見た自分とはズレがあることを確認する。</p> <p><第2時></p> <p>ステップ①自分のことをよく知る</p> <p>1 リフレーミングの説明と例（教科書P. 68）を読み、短所をリフレーミングすることで自分のアピールポイントを探すことを確認する。</p> <p>2 ワークシートを使って、ペアでリフレーミングに取り組む。終わったらペアを変えて繰り返す。</p> <p>3 何事も見方を変えることで別の側面が見えてくることを確認する。</p> <p><第3～4時></p> <p>1 「問い」で自己分析をするやり方（教科書P. 69）を読んで、自分の魅力探しをすることを確認する。</p> <p>2 まずは自問自答して、「問い」への答えを書いてみる。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。 自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。 「話すこと・聞くこと」において、自分の主張の合理性が伝わるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど、話の展開や構成を工夫している。

			<p>3 ペアを作って、お互いが相手に「問い」を投げかけ、答えを言う。聞き手が説明に納得できるか評価する。</p> <p>4 代表者がクラスの前に出て発表する。</p> <p>5 自分の進路や生き方を考えるには自己分析が重要であることを確認する。</p> <p><第5～6時> ステップ②相手のことをよく知る</p> <p>1 教科書P. 70を読んで、就職や進学を希望する企業や学校の情報を集める必要があることを確認する。</p> <p>2 志望する企業や学校を探すため、自分のやりたいことや興味のあることをワークシートに記入する。</p> <p>3 情報収集のやり方・注意点について説明を聞く。</p> <p>4 実際に情報収集をして、調べたことをまとめる。</p> <p>5 今後も志望先が見つければ自分で情報収集することを確認する。</p> <p><第7～8時> ステップ③相手に魅力が伝わるように表現する</p> <p>1 教科書P. 70～71を読んで、企業・学校と自分のマッチングが重要であることを確認する。</p> <p>2 志望する企業・学校の「求める人材像」と自分の共通点(=アピールポイント)を探し、ワークシートにまとめる。できれば複数作成する。</p> <p>3 ペアになって自己PRを行い、互いに評価する。</p> <p>4 志望先に合わせてアピールポイントを変える必要があることを確認する。</p> <p><第9～10時></p> <p>1 教科書P. 72～75を読んで、就職や総合型・学校推薦型選抜ではそれぞれどのような書類を作成するのか確認する。</p> <p>2 志望の動機(志望理由)の書き方について説明を聞く。</p> <p>3 志望の動機(志望理由)を文章の形で書く。ペアで内容を確認する。</p> <p>4 志望の動機(志望理由)を含めて、提出書類を作成する。</p>	<p>・「話すこと・聞くこと」において、自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫している。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>・「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。</p> <p>・「書くこと」において、読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、反論などを想定して、論理の展開を考えるなど、文章の展開や構成を工夫している。</p> <p>・「書くこと」において、読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。</p> <p>・「書くこと」において、自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫している。</p> <p>・「書くこと」において、読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自</p>
--	--	--	---	---

			<p>5 志望先によって書類を書き分ける必要があることを確認する。</p> <p><第 11 時> ステップ①面接の準備をする</p> <p>1 教科書 P. 76 を読んで、面接のマナーを確認する。</p> <p>2 面接のマナーや注意点について説明を聞く（映像 DVD-ROM の活用を推奨）。</p> <p>3 ノックや着席の動作などを実際に行う。</p> <p>4 模擬面接につながる練習であることを確認する。</p> <p><第 12～13 時></p> <p>1 教科書 P. 77 を読んで、模擬面接のやり方を確認する。</p> <p>2 「志望動機」「自己 P R」を口頭で述べる際の注意点について説明を聞く（映像 DVD-ROM の活用を推奨）。</p> <p>3 グループで模擬面接を行う。面接官役、志願者役を決めて、交替で行う。他の人は評価をする。交替時、フィードバックを行う。</p> <p>4 人物設定を取り入れた模擬面接を行い、その効果をグループで話し合う。</p> <p>5 面接のポイント、注意点について確認する。</p> <p><第 14～15 時></p> <p>1 教科書 P. 78～79 を読んで、さまざまな面接の形式があることを確認する。</p> <p>2 面接形式ごとの特徴や注意点について説明を聞く（映像 DVD-ROM の活用を推奨）。</p> <p>3 面接形式に応じた対策の仕方を確認する。</p> <p><第 16 時> 表現の窓「人前で表現するのが苦手なあなたへ」</p> <p>1 教科書 P. 80～81 を読んで、本文の内容を確認する。</p> <p>2 本文の構成・趣旨を確認する。</p> <p>3 「表現すること」の意味についてグループで話し合い、発表する。</p> <p>4 単元全体のリフレクションをする。</p>	<p>分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。</p> <p>[主] 自分を表現する活動を通じて、相手に共感をもって聞いたり読んだりしてもらうために必要なことを粘り強く理解し、今までの学習を生かして表現を改善しようとしている。</p>
--	--	--	--	---

■ 2 学期

5 論理的な文章を書こう<小論文> (9~10月)

<p>書く 論理的な文章を書こう</p> <p>スキルアップ ……文章修正ワーク</p> <p>スキルアップ ……パラグラフ・ライティング</p>	<p>[知技] (1)イ, ウ, エ [思判表] 書くこと(1)ア, イ, ウ, エ, カ ④書くこと(2)ア</p> <p>[知技] (1)ア, イ [思判表] 書くこと(1)エ, カ</p> <p>[知技] (1)イ, エ [思判表] 書くこと(1)イ, エ</p>	<p>・小論文を書くことを通して, 与えられたテーマに対して自分の考えを明確にする力と, 論理的で説得力のある文章を書く力を身につける。</p> <p>・現代社会のトピックに対して, 問題発見・課題分析を行い, 問題解決能力を養う。</p>	<p><第1時> フロントページ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 単元冒頭のリード文(教科書P. 82)を読み, 小論文のポイントを確認する。 2 主張には根拠が必要であることを確認する。 3 ワークシートを使用して, グループで「小論文の主張と根拠」に取り組む。 4 説得力のある根拠とはどのようなものか, 小論文にふさわしい表現の形とはどのようなものかを確認する。 <p><第2時> 小論文のタイプ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小論文にはさまざまなタイプ(出題形式)があること, 試験では時間配分と制限字数に注意することを確認する。 2 教科書P. 84~85の「小論文のタイプ」を読み, テーマ型, 課題文型, データ分析型, 自己PR型, それぞれの特徴を理解する。 3 教科書P. 84下段の「試験本番での取り組み方」を読み, 時間配分の目安や文字数の目安を確認する。 4 教科書P. 85下段の「小論文のテーマの例」を読み, どのようなテーマが出題されるのかを確認する。 5 小論文では現代的な課題について問われるので, 日頃から新聞や本を読むことが大切であることを確認する。 <p><第3~8時> A テーマ型小論文</p> <p>ステップ① 自分の考えを掘り下げ, 主張としてまとめる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教科書P. 86を読んで, テーマ型小論文では, 与えられたテーマについて「自問自答」をしながら, 考えを述べることを確認する。 2 ワークシートを使用して, 「問い」を立てる練習をする。教科 	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には, 自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割, 表現の特色について理解を深め, 伝え合う目的や場面, 相手, 手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し, 使い分けている。 ・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し, 話や文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・実用的な文章などの種類や特徴, 構成や展開の仕方などについて理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において, 目的や意図に応じて, 実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め, 情報の組み合わせなどを工夫して, 伝えたいことを明確にしている。 ・「書くこと」において, 読み手の同意が得られるよう, 適切な根拠を効果的に用いるとともに, 反論などを想定して, 論理の展開を考えるなど, 文章の展開や構成を工夫している。 ・「書くこと」において, 読み手の共感が得られるよう, 適切な具体例を効果的に配置するなど, 文章の構成や展開を工夫している。 ・「書くこと」において, 自分の考えを明確にし, 根拠となる情報を基に的確に説明するなど, 表現の仕方を工夫している。
---	---	--	---	--

			<p>書P. 87を参考に、マッピングも実践してみる。</p> <p>3 ワークシートを使用し、問題提起と主張をそれぞれ一文で表す。</p> <p>ステップ② 根拠を挙げ、反論で補強する</p> <p>4 教科書P. 88～90を読む。ワークシートを使用して、根拠を挙げ、反論で補強するペアワークをする。</p> <p>ステップ③ 構成メモを作る</p> <p>5 教科書P. 91の「構成メモの例」を読む。ワークシートを使用して、構成メモを作る。ペアワークで確認する。</p> <p>ステップ④ 執筆・推敲する</p> <p>6 教科書P. 92～93の「小論文完成例」と下段の「ポイント」を読む。ワークシートを使用して、推敲の練習をする。</p> <p>7 ワークシートを使用して、小論文を執筆・推敲する。</p> <p>8 小論文の評価について学び、ペアワークで評価し合う。</p> <p>9 テーマ型小論文作成の流れを振り返って確認する。</p> <p><第9～12時></p> <p>B 課題文型小論文</p> <p>1 課題文型小論文では、課題文の主旨を踏まえて、自分の考えを述べることを確認する。</p> <p>2 課題文（教科書P. 98）を読み、内容を確認する。</p> <p>3 ワークシートを使用して、課題文の要旨をまとめ、論点を挙げる。教科書P. 99を読んで確認する。</p> <p>4 論点に関する具体例を挙げる。</p> <p>5 教科書P. 100～101の「小論文完成例」を読み、構成を参考にし、構成メモを作り、ペアワークで確認する。</p> <p>6 ワークシートを使用して、小論文を執筆・推敲する。</p> <p>7 小論文の評価を行う。</p> <p>8 課題文型小論文作成の流れを振り返って確認する。</p> <p><第13～16時></p> <p>C データ分析型小論文</p> <p>1 教科書P. 102下段を読んで、データ分析型小論文では、グラフや表を踏まえて自分の考えを述べることを確認する。</p>	<p>・「書くこと」において、読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。</p> <p>[主] 小論文を書く活動を通じて、設問に応じて主張を組み立て、根拠を明確にしながら論じることを粘り強く理解し、学習の見通しをもって自らの文章を改善しようとしている。</p>
--	--	--	---	---

			<p>2 図表の読み取り方について学習する。</p> <p>3 図1～図3（教科書P. 102～103）の読み取りをする。</p> <p>4 教科書P. 104を読んで、三つの図表を合わせて考えることを確認する。グループを作り、図1～図3から何が論点となるかを話し合う。</p> <p>5 教科書P. 105の「小論文完成例」を読む。構成メモを作成する。</p> <p>6 ワークシートを使用して、小論文を執筆・推敲する。</p> <p>7 小論文の評価を行う。</p> <p>8 データ分析型小論文作成の流れを振り返って確認する。</p> <p><第17～18時></p> <p>D 自己PR型小論文</p> <p>1 教科書P. 106を読んで、自己PR型小論文では、経験や実績などを具体例として挙げながら、自分の長所や思いを述べることを確認する。</p> <p>2 自分の長所を複数挙げ、それを表すエピソードを探す。</p> <p>3 教科書P. 107の「小論文完成例」を読み、構成を確認する。</p> <p>4 構成メモを作成し、ペアで確認する。</p> <p>5 小論文を執筆・推敲する。</p> <p>6 小論文の評価を行う。</p> <p>7 自己PR型小論文作成の流れを振り返って確認する。</p> <p><第19～20時></p> <p>表現の窓「リンクを張る能力の鍛え方」</p> <p>1 教科書P. 110～111を読んで、本文の内容を確認する。</p> <p>2 本文の構成・趣旨を確認する。</p> <p>3 「リンクを張る能力」についてグループで話し合い、発表する。</p> <p>4 単元全体のリフレクションをする。</p>	
6 話し合う力をつけよう<ファシリテーション>（10月）				
話す・聞く 話し合う力をつけよう	[知技](1)ア, イ [思判表] 話す	・合意形成を目的とする話し合いの	<第1時> フロントページ	[知技] ・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働

	<p>こと・聞くこと(1)イ, エ, オ, キ</p> <p>⑥話すこと・聞くこと(2)エ</p>	<p>展開パターンと、それを支えるファシリテーションの概念および基本的なスキルを学ぶ。</p> <p>・災害避難所でのコミュニケーションにおける意見対立を描いた脚本をもとに、協働的問題解決を目指す話し合いをシミュレーションする。</p>	<p>1 話し合いの経験を振り返り、グループもしくはクラスで共有する。</p> <p>2 フロントページ(右ページ)を読み、話し合う意義と目的、ファシリテーションの概念を確認する。</p> <p>3 1で振り返った話し合いについて、「ウォーミングアップ」の図の①・②に当てはまるものがあつたか、また、なぜそのような話し合いになったかを発表し合う。</p> <p>4 話し合いの意義、目的、機能を押さえ(カードやノートに書き出し)、次回からの学習展開を共有する。</p> <p><第2時> 話し合いの基本的な展開</p> <p>1 教科書に示された「1共有→2拡散→3収束・合意形成→4確認」を読んで基本の流れを押さえる。</p> <p>2 各教科や部活動、あるいは地域の自治会などで実際に進行中もしくはこれから予定されている話し合いや会議(「文化祭のクラス展示について」「地域防災活動の活性化について」「お盆休みの家族旅行について」など)を例に、「1収束」から「4確認」までのプロセスをシミュレーションする。</p> <p>3 シミュレーション終了後に、出されたファシリテーションのポイントをクラス全体で確認する。</p> <p><第3時> ファシリテーションの実践例を考える</p> <p>1 被災地の避難所生活にまつわる知識・情報を共有する。</p> <p>2 教科書P. 116～118のシナリオを読む。</p> <p>3 生じている問題について、意見の対立を中心に把握し、その原因となっている物理的現象および人物の言動を洗い出す。</p> <p>4 問題解決の方向性を、登場人物の言動の面から探る。</p> <p>5 ファシリテーションの意義と目的を再確認する。</p> <p><第4時> 表現の窓「スポーツと同じように議論にもルールがある」</p> <p>1 スポーツのルールにまつわる知識や体験を共有する。</p> <p>2 教科書P. 124～125の「表現の窓」の文章を読み、要旨を捉</p>	<p>きがあることを理解している。</p> <p>・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、自分の主張の合理性が伝わるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど、話の展開や構成を工夫している。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、互いの主張や論拠を吟味したり、話し合いの進行や展開を助けたりするために発言を工夫するなど、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。</p> <p>[主] ファシリテーションの意義や技法を粘り強く理解し、学習の見通しをもって話し合いの中で積極的に実践しようとしている。</p>
--	---	--	---	---

			<p>える。</p> <p>3 避難所の話し合いに必要な「ルール」を考える。</p> <p>4 3で考えたルールを今後のシナリオ作りの参考にすることを確認する。</p> <p><第5時></p> <p>表現の窓「同じ論拠から多様性を見いだすには」</p> <p>1 自分と他人とで「常識が違う」と感じた体験を共有する。</p> <p>2 教科書P. 126～127の「表現の窓」の文章を読み、要旨を捉える。</p> <p>3 避難所の生活において、ぶつかり合う「常識」を考える。</p> <p>4 3で考えたことを今後のシナリオ作りの参考にすることを確認する。</p> <p><第6～7時></p> <p>ファシリテーションの実践例を考える</p> <p>1 教科書P. 116～118のシナリオを再読する。</p> <p>2 グループに分かれて、教科書P. 117以降のシナリオについて、対立を最小限にとどめ、合意形成のもと問題解決に向かうもの書き換える。</p> <p>3 発表時までにはリハーサルをしておくことを指示する。</p> <p><第8～9時></p> <p>1 話し合いを演劇の形でシミュレーションすることのねらいと意義を確認する。</p> <p>2 グループごとに発表を行う。発表後、意見・感想を交流する。</p> <p>3 教科書P. 114～115下段に掲載された「ファシリテーターの心得」を再度読み、話し合いのメンバー一人一人がファシリテーションを身につけて、それを活用することが理想的であることを共有する。</p> <p><第10時></p> <p>いろいろな話し合い</p> <p>1 話し合いや会議には（人間の知恵や文化として）いろいろな形態があることを、教科書の例を見ながら学習する。</p> <p>2 パネルディスカッションやディベート、ワールドカフェなど</p>	
--	--	--	--	--

			の体験を問うたり、実際の様子分かる動画を視聴したりする。 3 単元全体のリフレクションを行う。	
◇ 表現と読書活動 (11月)				
話す・聞く／書く 表現と読書活動 スキルアップ ……広告・PRの表現	<p>[知技] (1)イ, ウ ／(2)ア</p> <p>[思判表] 話すこと・聞くこと(1)ア, ウ, エ, カ, キ／書くこと(1)ア, ウ, オ</p> <p>⑤話すこと・聞くこと(2)ア</p> <p>[知技] (1)ウ, オ ／(2)ア</p> <p>[思判表] 書くこと(1)ア, ウ, オ</p>	<p>・本を紹介し合う活動を通して、さまざまな本と出会い、読書の楽しみを知る。</p> <p>・本を紹介したり、本の内容について対話したりする活動を通して、思考を深め、表現を豊かにする。</p>	<p><第1時></p> <p>1 単元全体の目標を確認する。</p> <p>表現の窓「読書もまた一つの『経験』」</p> <p>2 教科書P. 138～139の「表現の窓」を読んで内容を理解し、「読書の効用」についてグループで話し合う。</p> <p>読書ノート</p> <p>3 読書記録の取り方や活用の仕方について情報交換し、「読書ノート」の作り方を確認する。</p> <p>4 この単元での活動を通して読みたいと思った本を、読書ノートのリストに追加していくことを確認する。</p> <p><第2時></p> <p>図書室探検</p> <p>1 図書室探検のやり方を確認する。</p> <p>2 三～四人のグループで図書室に入り、十分間で各自がお宝本(読みたいと思った本)を一冊探してくる。</p> <p>3 各自が探し出したお宝本をグループで共有する。</p> <p>4 グループのお宝本に共通するテーマを話し合って考える。</p> <p>5 共通テーマを表現するためのポスターを作る。</p> <p><第3時></p> <p>1 お宝本についてクラス全体の前でどのように発表するかを、グループで話し合う。</p> <p>2 各グループのお宝本紹介をする。各自が自分のお宝本を紹介し、最後にポスターを見せて本に共通するテーマを紹介する。</p> <p>3 読んでみたいと思った本を読書ノートのリストに追加する。</p> <p><第4時></p> <p>ブックトーク</p> <p>1 ブックトークのやり方を確認する。</p>	<p>[知技]</p> <p>・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けしている。</p> <p>・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・省略や反復などの表現の技法について理解を深め使っている。</p> <p>・自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫している。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。</p>

			<p>2 教科書P. 131の「テーマの調べ方」を参考にしながら、テーマを決め、テーマにふさわしい本を選ぶ。</p> <p>3 どのように本を紹介するか考え、原稿を書く。</p> <p>4 発表の際に配るレジュメを用意する。</p> <p><第5時></p> <p>1 発表の順番を決める。</p> <p>2 話し手は七分以内で三冊紹介する。聞き手は配布されたレジュメにメモを取りながら聞く。</p> <p>3 全部のブックトークが終わったところで読みたいと思った本を読書ノートのリストに追加する。その本をなぜ読みたいと思ったのかを振り返りに書く。</p> <p><第6時></p> <p>ブック・プレゼン・ダイアログ</p> <p>1 ブック・プレゼン・ダイアログのやり方を確認する。</p> <p>2 本を準備する。</p> <p>3 グループで各自が分担するページを決める。</p> <p>4 自分の担当ページを読み、B5判の用紙六枚程度に内容をまとめ、要約ポスターを作る。</p> <p><第7時></p> <p>1 グループ内で、ポスターを掲示しながらページ順に要約を発表し合い、全体内容を共有する。</p> <p>2 他のグループの掲示を見て回り、気になるところに質問、コメントを書いた付箋を貼る。</p> <p>3 グループに戻り、自分たちのポスターに貼られた付箋をもとに、グループ内で対話する。</p> <p>4 グループ代表が対話内容を発表し、全体で共有する。</p> <p><第8時></p> <p>ビブリオバトル</p> <p>1 ビブリオバトルのやり方を確認する。</p> <p>2 今までの読書を振り返り、他の人に薦めたい本を選ぶ。</p> <p>3 どのように本を紹介するか考え、発表の準備をする。</p> <p>4 予選グループを決める。</p>	<p>・「話すこと・聞くこと」において、視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、互いの主張や論拠を吟味したり、話し合いの進行や展開を助けたりするために発言を工夫するなど、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。</p> <p>・「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。</p> <p>・「書くこと」において、読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。</p> <p>・「書くこと」において、自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫している。</p> <p>[主] 本を紹介し合う活動に積極的に取り組み、今までの学習を生かして他者との交流を通して内容への理解を深めたり、相手に伝える表現を工夫したりしようとしている。</p>
--	--	--	--	--

			<p><第9時></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 予選グループ内で、発表とディスカッションを行う。 2 予選グループ内で投票し、チャンプ本を決める。 3 予選通過のチャンプ本を、クラス全体に向けて紹介し、ディスカッションを行う。 4 全体で投票し、クラスのチャンプ本を決める。 5 読んでみたいと思った本を読書ノートのリストに追加する。 <p><第10時></p> <p>本の帯・ポップ作り</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本の帯、ポップとはどういうものか確認する。 2 帯とポップ、どちらの形式で作成するか決める。 3 PRしたい本を選ぶ。 4 帯またはポップの構想を練り、作成する。 5 完成した帯またはポップを掲示し、互いに見て回る。 6 単元全体のリフレクションをする。 	
--	--	--	---	--

7 情報活用力を身につけよう<広報資料> (12月)

<p>話す・聞く／書く 情報活用力を身につけよう</p> <p>スキルアップ ……報告書の書き方</p>	<p>[知技](1)ア, イ [思判表] 話すこと・聞くこと(1)キ／書くこと(1)ア, ウ, オ, カ ⑤ 書くこと(2)ウ</p> <p>[知技](1)イ, エ [思判表] 書くこと(1)イ, エ ⑤ 書くこと(2)イ</p>	<p>・正確な情報を見極め、その情報を目的に合わせて効果的な表現で発信する。 ・相手意識を持ち、相手にとって有用な内容や理解しやすい表現を吟味する。</p>	<p><第1時> フロントページ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教科書P. 140～149を読んで、報告書をもとに新たに広報資料を企画・制作する流れや、制作のポイントを確認する。 2 広報誌、ホームページなど、広報資料の種類について確認する。 3 生徒たちが持ってきた広報資料について、メディアの種類や発信元、想定される読者、紙面などの特徴を分析する。 4 広報資料の制作では相手意識、目的意識が大切であることを確認する。 <p><第2時> ステップ①企画立案・取材</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 グループを作り、グループのメンバーの持ってきた広報の中から、もとにする資料の一つを選ぶ。(ワークシートを活用してもよい。) 	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。 ・実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、互いの主張や論拠を吟味したり、話し合いの進行や展開を助けたりするために発言を工夫するなど、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。
--	---	--	---	--

			<p>2 編集会議を行い、これから制作する広報資料では、伝える相手や媒体をどのように設定するか、考える。</p> <p>3 どのような内容をどのような形で伝えたいか、編集方針を考える。</p> <p><第3時></p> <p>1 伝える相手、目的、媒体を確認し、それらに合わせてどのような情報が必要かを確認する。</p> <p>2 不足している情報の収集方法、原稿や図版の作成、写真の撮影など、必要な作業を確認する。</p> <p>3 締め切りを決め、スケジュールを確認する。</p> <p>4 役割分担する。</p> <p><第4～6時></p> <p>1 各自の役割分担に合わせて、情報の収集や図版の作成、既存の資料をもとに書ける部分の原稿作成などを行う。</p> <p>2 集めた資料や作成した原稿について内容を確認する。</p> <p>3 担当者、あるいはグループの代表者などが、資料や原稿を集めて保管する。</p> <p><第7時></p> <p>ステップ②編集・制作</p> <p>1 編集会議の目的について確認する。</p> <p>2 編集会議を開き、レイアウトやデザインを考える。</p> <p>3 レイアウトやデザインを紙などに大まかに描き、全体のバランスを確認する。</p> <p>4 読み手の立場で考えて、見やすいかどうか再度確認する。</p> <p>5 原稿の文字数や図版の大きさなどを調整し、レイアウトを決定する。</p> <p><第8～9時></p> <p>1 写真や映像の掲載許可が取れているか確認する。</p> <p>2 原稿や図版、写真や動画を、パソコンなどを使って紙面や画面に合うように組み合わせ、全体を形にする。</p> <p>3 紙面や画面全体を見て、バランスのよしあしや見づらいところ、読みにくいところなどを確認し、修正して仕上げる。</p>	<p>・「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。</p> <p>・「書くこと」において、読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、反論などを想定して、論理の展開を考えるなど、文章の展開や構成を工夫している。</p> <p>・「書くこと」において、読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。</p> <p>・「書くこと」において、自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫している。</p> <p>・「書くこと」において、自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫している。</p> <p>・「書くこと」において、読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。</p> <p>[主] 広報資料の目的を粘り強く理解し、学習課題に沿って読み手に伝えたい情報を吟味し、話し合いながら協力して、よりよい広報資料を作ろうとしている。</p>
--	--	--	---	--

			<p>4 レイアウトした広報資料をプリントアウトする。</p> <p><第10時></p> <p>1 「広報の目的に照らしてチェック」(教科書P. 147)を読み、校正のポイントを確認する。</p> <p>2 プリントアウトした広報資料を校正する。</p> <p>3 校正結果に合わせて、修正する。</p> <p>4 完成した広報資料を保存またはプリントアウトする。</p> <p><第11時></p> <p>ステップ③発信</p> <p>1 保存していたデータをアップロードしたり、紙に印刷して掲示したりする。</p> <p>2 アップロードしたものや掲示したものに対する意見や感想などを聞く。</p> <p>3 表現の仕方などで心がけた点、工夫に気づいた点を伝え合う。</p> <p><第12時></p> <p>表現の窓「読者への配慮」</p> <p>1 教科書P. 152～153を読んで、本文の内容を確認する。</p> <p>2 本文の構成・趣旨を確認する。</p> <p>3 「読者への配慮」をする意味についてグループで話し合い、発表する。</p> <p>4 単元全体のリフレクションをする。</p>	
■ 3 学期				
8 説得力のある提案をしよう (1月)				
<p>話す・聞く／書く</p> <p>説得力のある提案をしよう</p> <p>スキルアップ</p>	<p>[知技] (1)ア, イ</p> <p>[思判表] 話すこと・聞くこと(1)ア, イ, エ, オ, キ／書くこと(1)イ, エ</p>	<p>・提案内容を受け入れてもらうために、効果的で印象的なプレゼンテーションの仕方や、相手の心を動かすのに必要な</p>	<p><第1時></p> <p>フロントページ</p> <p>1 単元冒頭の「ポイント プレゼンテーション」(教科書P. 154)を読み、プレゼンテーションにとって重要なことを理解する。</p> <p>2 グループに分かれ、これまで見た行ったりしたプレゼンテーションについて説明し合い、内容や状況、かかった時間、使っ</p>	<p>[知技]</p> <p>・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。</p> <p>・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。</p>

<p>……提案書の書き方</p>	<p>⑥話すこと・聞くこと(2)オ</p> <p>[知技](1)イ, エ</p> <p>[思判表] 書くこと(1)ア, イ, エ</p> <p>⑥書くこと(2)オ</p>	<p>身体表現（発声・身振り）や態度などについて学び、説得力のある表現について理解する。</p> <p>・フィードバックで他者の意見を取り入れることで、相手の心を動かすよりよい表現を目指す。</p>	<p>た機器や道具、工夫されていたことを挙げる。</p> <p>3 2で挙げられた内容について、分かりやすかったり、印象的だった点を取り上げ、理由を考える。</p> <p><第2時></p> <p>ステップ①提案内容を考える</p> <p>1 グループに分かれ、教科書P. 156の「提案とその提案先の例」を参考に、提案したい内容を挙げる。</p> <p>2 1で挙げた提案したい内容に対して、教科書P. 156の「問いの例」を参考に、内容を深め、より提案するにふさわしい内容を考える。</p> <p>3 2で検討した内容をまとめて、グループで提案することを明確にする。</p> <p><第3～4時></p> <p>1 教科書P. 157の「説得力のある提案」を見て、提案を支える根拠に、データや事例などの事実や、持論・常識・世論といった理由があることを確認する。</p> <p>2 提案について、根拠（事実・理由）を調べたり考えたりし、グループ内で、教科書P. 157の「説得力のある提案」の形でまとめる。</p> <p>3 まとめた根拠をもとに、提案の概要、現状の問題点、問題点を解消する具体的な提案の内容などを考える。</p> <p>4 3で考えた内容を項目に分けてまとめる。</p> <p><第5～7時></p> <p>ステップ②プレゼンテーションの内容・方法を考える</p> <p>1 教科書P. 158の「プレゼン成功のポイント」を確認する。</p> <p>2 プレゼンテーションをする相手や場所を想定し、プレゼンテーションの構成メモを作る。</p> <p>3 教科書P. 159を参考に、概要を示すスライドやデータを示すスライドなど、プレゼンテーションに必要なスライドの種類や枚数を考える。</p> <p>4 教科書P. 160の作成例や「適切なスライドのチェック項目」を参考に、スライドと、スライドに沿って話す内容のメモを作</p>	<p>・実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、自分の主張の合理性が伝わるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど、話の展開や構成を工夫している。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、互いの主張や論拠を吟味したり、話し合いの進行や展開を助けたりするために発言を工夫するなど、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。</p> <p>・「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。</p>
------------------	---	---	---	--

			<p>る。</p> <p>5 4で作ったものを表示したり読み上げたりし、規定の時間内に収まるように進行表を作成する。</p> <p><第8時></p> <p>ステップ3 ④プレゼンテーションを行う</p> <p>1 グループ内でプレゼンテーションを行い、教科書P. 162の「リハーサルのチェック項目」に沿ってチェックする。</p> <p>2 フィードバックを行い、話し方、スライドの切り替えや内容などを話し合う。</p> <p>3 フィードバックの内容を反映したプレゼンテーションのスライドや話す内容のメモを作る。</p> <p>4 グループの全員で、3の内容を確認する。</p> <p><第9時></p> <p>1 プレゼンテーションの機器などの準備を行う。</p> <p>2 他のグループの前でプレゼンテーションを行ったり、他のグループのプレゼンテーションを聞いたりする。</p> <p>3 自分たちのグループのプレゼンテーションを振り返り、感想や次回工夫したい点などを確認する。</p> <p><第10時></p> <p>表現の窓「プレゼンテーションの仕方」</p> <p>1 教科書P. 166～167を読んで、本文の内容を確認する。</p> <p>2 本文の構成・趣旨を確認する。</p> <p>3 「プレゼンテーションの仕方」やプレゼンテーションをする意味についてグループで話し合い、発表する。</p> <p>4 単元全体のリフレクションをする。</p> <p>*この教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	<p>・「書くこと」において、読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、反論などを想定して、論理の展開を考えるなど、文章の展開や構成を工夫している。</p> <p>・「書くこと」において、自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫している。</p> <p>[主] プレゼンテーションを行う活動を通して、説得力のある提案をするために必要なことを粘り強く理解し、今までの学習を生かして実践しようとしている。</p>
9 表現を楽しもう<創作> (2月)				
話す・聞く／書く 表現を楽しもう	[知技](1)ウ, オ ／(2)ア	・俳句, 短歌, エッセー, 物語など,	<第1時> フロントページ	[知技] ・自分の思いや考えを多彩に表現するために

<p>スキルアップ ……レトリック</p>	<p>[思判表] 書くこと(1)ア, ウ, オ, カ</p> <p>[知技] (1)ウ, オ</p> <p>[思判表] 話すこと・聞くこと(1)エ／書くこと(1)オ</p>	<p>いろいろなジャンルの作品創作を通じて、言葉を用いて表現することを楽しむ。</p> <p>・読み手に伝わるよう、表現を効果的に工夫し、自分ならではの作品を創作する。</p>	<p>1 本單元ではさまざまなジャンルの作品を創作し、創作活動を楽しむことを確認する。</p> <p>2 「ウォーミングアップ」①②を通して、表現のジャンルや、それぞれの特徴について確認する。</p> <p>3 「ウォーミングアップ」③の活動として、グループに分かれて、心に残っている文学作品について共有する。</p> <p><第2～3時> 俳句を詠む</p> <p>1 俳句とはどういうものか、教科書P. 170～171を読んで確認する。</p> <p>2 俳句の音の数え方を確認する。</p> <p>3 十二音の俳句のタネと五音の季語とを取り合わせる手法で、俳句を二～三句作り、提出する。</p> <p>4 クラスで句会を行う。(教科書P. 172の「句会・歌会の方法」を参照)</p> <p><第4～5時> 短歌を詠む／なりきり短歌物語を作る</p> <p>1 短歌とはどういうものか、教科書P. 172を読んで確認する。</p> <p>2 短歌を二～三首作り、提出する。</p> <p>3 提出された短歌から好きな短歌を選び、なりきり短歌物語を作る。</p> <p>4 なりきり短歌物語をクラスで読み合う。</p> <p><第6～9時> エッセーを書く</p> <p>1 教科書P. 174「エクササイズ」の㉠と㉡の文章を読み比べて、どこがどう違うか、表現の工夫をクラスで出し合って共有する。</p> <p>2 エッセーの題材を九ますブロックなどを使って見つける。</p> <p>3 題材となる経験を新たな視点で捉え直す。</p> <p>4 構成や表現を工夫してエッセーの下書きを書く。</p> <p>5 下書きをクラスで回し読みして、推敲に向けて互いにアドバイスし合う。</p>	<p>必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 省略や反復などの表現の技法について理解を深め使っている。 自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」において、相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。 「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。 「書くこと」において、読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。 「書くこと」において、自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫している。 「書くこと」において、読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 <p>[主] 文学作品の創作に意欲的に取り組み、読み手を意識しながら粘り強く表現の仕方を</p>
---------------------------	--	--	--	--

			<p>6 推敲して作品を仕上げる。 (余裕があれば、推敲と清書にもう一時間、完成作品の回し読みにもう一時間を充てるのが理想。)</p> <p><第 10～13 時> 物語・小説を作る</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 主人公の人物設定を書き出す。 2 主人公が困る状況を作る。 3 問題を乗り越える物語展開を考える。 4 語り手を誰にするか決めて書き出す。 5 教科書 P. 180～181「エクササイズ」の㉠と㉡の文章を読み比べて、どこがどう違うか、描写と会話の工夫をクラスで出し合って共有する。 6 物語の下書きの続きを書く。 7 下書きをクラスで回し読みして、推敲に向けて互いにアドバイスし合う。 8 推敲して作品を仕上げる。 (余裕があれば、推敲と清書にもう一時間、完成作品の回し読みにもう一時間を充てるのが理想。) <p><第 14 時> 表現の窓「俳句の中に、私を見つけた！」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教科書 P. 184～185 の神野紗希の文章を読んで、本文の内容を確認する。 2 「歳時記の言葉と現実の風景がつながるとき、世界の解像度がぐっと上がります」とはどういうことか理解する。 3 2について考えたことをクラスで話し合う。 <p><第 15 時> 表現の窓「時間を味方につける」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教科書 P. 186～187 の村上春樹の文章を読んで、本文の内容を確認する。 2 なぜ筆者は「大事なものは、書き直すという行為そのものなのです」と述べるのか考えて、クラスで話し合う。 3 当單元において作品を創作する過程で、書き直すこと（推敲 	<p>工夫して、今までの学習を生かして自分が思い描いたことを的確な言葉で表現しようとしている。</p>
--	--	--	---	---

			<p>すること)がどのような意味を持っていたか、考え、クラスで共有する。</p> <p>4 単元全体の振り返りをする。</p>	
◇ 心をつかむ表現 (3月)				
<p>話す・聞く／書く 心をつかむ表現</p>	<p>[知技](1)ウ, オ ／(2)ア [思判表] 話す こと・聞くこ と(1)イ, エ, オ, キ／書く こと(1)オ</p>	<p>・日常生活上のこ とも含めた「表現」 活動を振り返り, 今後の「表現」を だいじにする気 持ちを養う。</p> <p>・表現の工夫が他者 とのやりとりで 重要であることを 理解し, 言葉を 吟味し適切に使 おうとする態度 を養う。</p>	<p><第1時> 1 単元の目標と学習の流れを確認する。 2 教科書P. 188～193 を読み, 内容を理解する。 3 グループや隣どうしで, 印象に残った部分を話し合う。 4 3で話し合った内容も踏まえて, 考えたことをまとめる。</p> <p><第2～4時> 1 YOASOB Iか高梨沙羅選手のどちらかを選び, 文章を読 んで考えたことを, 箇条書きなどを用いて書き出す。 2 1で書き出した要素について, 構成を決めて, 文章にまとめ る(三〇〇字程度)。 3 グループ内(隣どうし)で発表し合う。 4 単元全体のリフレクションをする。</p>	<p>[知技] ・自分の思いや考えを多彩に表現するために 必要な語句の量を増し, 話や文章の中で使う ことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにして いる。 ・省略や反復などの表現の技法について理解 を深め使っている。 ・自分の思いや考えを伝える際の言語表現を 豊かにする読書の意義と効用について理解 を深めている。</p> <p>[思判表] ・「話すこと・聞くこと」において, 自分の主張 の合理性が伝わるよう, 適切な根拠を効果的 に用いるとともに, 相手の反論を想定して論 理の展開を考えるなど, 話の展開や構成を工 夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において, 相手の反応 に応じて言葉を選んだり, 場の状況に応じて 資料や機器を効果的に用いたりするなど, 相 手の同意や共感が得られるように表現を工 夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において, 論点を明確 にして自分の考えと比較しながら聞き, 話の 内容や構成, 論理の展開, 表現の仕方を評価 するとともに, 聞き取った情報を吟味して自 分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「話すこと・聞くこと」において, 互いの主張</p>

				<p>や論拠を吟味したり、話し合いの進行や展開を助けたりするために発言を工夫するなど、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none">・「書くこと」において、自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫している。 <p>【主】 教材文を読んで、社会で必要とされている表現の在り方について考え、学習の見通しをもって自分の表現に生かそうとしている。</p>
--	--	--	--	---